福島県PTA連合会会報
第42号_H08.11.30

福島ＰＴＡだより

第42号

福島県ＰＴＡ連合会
福島市黒岩字田部屋53-5
福島県青少年会館内
電話　(0245)45-5982
発行人　山岸　清
印刷　泉印刷所
電話 57-1071

《大会主題》

『思いやりと広い心をもった未来を担う子供を育むＰＴＡ活動を創造しよう』

「教育は熱意に支えられて」

―第45回福島県ＰＴＡ大会郡山大会終わる―

「思いやりと広い心をもった未来を担う子供を育むＰＴＡ活動を創造しよう」を大会主題とした、第四十五回福島県ＰＴＡ研究大会郡山大会は、十月十八、十九日の二日間「水と緑がきらめく未来都市」郡山市ユラックス熱海をメーン会場として開催された。家庭、学校、地域の三者を結ぶ唯一の機関であるＰＴＡの組織の一員として、二千五百名を超える会員、並びに来賓の皆様と共に子どもたちを取り巻く状況と教育のあり方について議論の輪を広げていくことができた。

第一日目には、郡山ユラックス熱海・磐梯グランドホテル・ホテル華の湯を会場として、各単Ｐから実践例の発表・提言があり、会員からの質疑応答、並びに熱のこもった協議が行われた。最後に、各指導の先生方から適切なご指導を頂き、それまでの活動の適切さと今後のＰＴＡの活動の大きな指針を頂いて終了することができた。

第二日目は郡山ユラックス熱海を会場として全体会が開かれた。主催者挨拶の後、二十九名の方々に感謝状、団体三十七、個人百名の方々に表彰状の贈呈が行われた。

更に、心に響きわたる郡山第二中学校の管弦楽の演奏に耳を傾けた後「子供の声に耳を傾けて」と題する遠藤豊吉先生の記念講演を頂くことができた。

閉会式では、開催地を代表して郡山大会実行委員長早川敬介氏の心こもるお礼の挨拶に続き、次期開催地を代表して、いわき市ＰＴＡ連合会長正木全道氏の力強い挨拶を頂き、いわき大会での再会を誓い、二日間の大会を成功裡に終了することができた。

子供をとりまく より豊かな環境づくりへ

会長　山岸　清

平成八年度県ＰＴＡ事業の中間反省をふまえ、今後の展望の一端を述べさせていただきます。

夏本番の七月、県いわき海浜自然の家が新設開業され、相馬海浜自然の家とともに子供たちの明るい歓声が響きわたりました。青年の家から自然の家へと新設を機会に改組され子供たちの期待に応える県の対応に感謝いたします。

また、Ｏ一五七事件で学校給食が注目される中、日本ＰＴＡ全国大会第八分科会において会津若松市立城南小の「夢あるランチタイム」の実践発表がなされ、参加者の評価を得たこと、改めてご努力に感謝いたします。

さらに、九月県議会におきましてテレホンクラブ規制条令が可決され来年二月施行となりましたこと、関係者のご努力・会員のご協力の賜とこれまた深く感謝いたします。

しかし、昨今の各種通信・映像技術の発達（パソコン通信・インターネット・光デスク等）により、親が気付かないうちに青少年が汚染され、あるいは家庭そのものがその渦に巻き込まれる恐れを感じるとき、ＰＴＡとしてどのように対処していかなければならないか、大きな課題を抱えさせられていると思います。

一方、本年県ＰＴＡ最大の事業「研究大会郡山大会」において、本県出身の遠藤豊吉先生の「子どもの声に耳をかたむけて」のご講演は病床につかれた時の、使命感に支えられた看護婦さんの仕事ぶり、また、子供の内なる声に応えなければならない大人の責任等、参会の親のみならず先生方にも深い感銘をあたえるお話でした。

大会に先立って行われましたレセプションに佐藤栄佐久知事と同席させていただき大変光栄に存じました。その折り、知事ご挨拶の中の「大学への本県高校生の進学チャンスを高めるため、その学力向上諸施策への努力を惜しまない」というお言葉に、胸の熱くなる思いをいたしました。

最後に、本県の水と緑の豊かさ、校庭の広さ、ＰＴＡの熱意等が、経済企画庁の豊かさ指標に加えられれば、本県の「学ぶ」の水準は、相当の所に上がるのではないかと確信し、皆様と共にいっそうの努力を継続していきたいと思うものです。

報告

第一分科会

［提言一］福田小（福島）

学校の立地状況から、地域社会との連携により多くの関わりを持っている。ＰＴＡ活動や学校行事を地区全体が一つとなり実施している。「子どもを地域全体で育てるのだ」という気持ちでＰＴＡの運営をしていきたい。

［提言二］鏡石中（岩瀬）

子供達の教育環境を整える事や、今何が問題となっているかを懇談会やあらゆる機会を通して把握し、役員と先生方が十分に話し合い問題解決を図る。現在の組織運営には実際上問題も多いので、それぞれに必要に対応した規約の見直しを考えている。

［提言三］長瀬小（北会津）

ＰＴＡ活動は、地域にとってコミュニケーションの場であり、社会的役割を果たす重要な位置づけを成している。今後の課題として

① 父親のＰＴＡ活動への積極的参加ができる組織と活動の見直し

② 活動のマンネリ化打破のための新企画の検討

提言後、各校より活発な発言が多数あった。最後に助言者の先生からＰＴＡの目的は児童の健全育成を図ることであり、学校、ＰＴＡ、地域社会がより連携を図りつつ、父親の参加意識を植えつけて行く事が大切などの指導があった。

第二分科会

［提言一］吉井田小（福島）

ＰＴＡ活動活性化の一つとして役員選出のための選考委員を四月に決め、会員の活動の状況から次期役員の候補者を見つけ、役員の選出にあたるようにした。

ＰＴＡ広報誌のアンケート結果から持ち上がった制服着用の是非が理事会でも取り上げられ、詳しいアンケートや自由服着用の試行、制服業者との話し合いなどの取組みで活動が盛り上がっている。

［提言二］笹原小（東白）

両親参観日に親子ビデオ教室を開催し、いじめ問題等について親子で視聴する。親子の会話に役立つ。教育環境整備と愛校精神の涵養のため親子奉仕日を設け親子参加で実施している。学校行事の運動会でも役員全員が協力し地域あげての盛り上がりのある運動会となっている。

［提言三］明和中（南会津）

すべての諸会合において保護者の出席率は一〇〇％である。教育に対する関心の高さや楽しいＰＴＡ活動の取組みと古き良き時代の伝統が息づいている。

道徳教育の一環として、親子「クリーン作戦」を展開し親子で清掃活動に取組み社会の一員として郷土のために役立つ人づくりに一役かっている。

第三分科会

［提言一］吉子川小（西白河）

思いやりと広い心をもった子どもを育む家庭教育の実践に努めている。特に、親子の共通体験、ボランティア体験、高齢者に対する理解、障害者に対する人事的理解などについて、親自身が意識的に行動することによって、親子が同一歩調で活動できる環境づくりに努めている。

［提言二］三島小（両沼）

ＰＴＡとして地域社会との連携を強化し、まちづくり運動の諸活動（体験活動、各地区の活動、祭り等）に積極的に参加し実績を上げてきている。

また、ＰＴＡ宣言（五項目）を提唱し、家庭及び地域が一体となって子どもの育成に努めている。

提言に続いて、家庭教育のあり方、体験活動のあり方等について活発な協議が行われ、指導助言の先生方からは、家庭教育にはまず大人自身の成長が大切であり、ある程度の距離を保った子どもとのつき合い方が重要であること。

子どもに生きがいをもたせる体験活動の重要性、受け身でなく様々なものに挑戦する喜びを共有できる子どもの育成が大切であり、そのために、地域社会とどう連携していくかが今後の課題であることなどの指導があった。

第四分科会

［提言一］霊山中（伊達）

「家庭と学校及び社会における

分科会

第五分科会

［提言一］駒形小（耶麻）

みどりの少年団に加入し、各少年団と連携を図り、相互に友情を深めると共に、自然の中での共同生活を通じて、豊かな人間性と奉仕の精神を養うための活動を展開している。

［提言二］新鶴小（両沼）

子どもの健全育成を図るために、資源回収、奉仕作業、地区子ども会等を親子で行い、望ましい教育環境づくりに力を入れている。今後は、ＰＴＡ活動が自主的に行えるよう、意識を高めていきたい。

［提言三］湯本二中（いわき）

ＰＴＡ活動を活性化させるために、球技大会や懇親会を通しての人的な交流を図っている。また、学校のＯＢ、ＯＧや地域の有志の参加を得ながら、教育環境整備に努力する必要がある。

提言に続いて、駒形小のある塩川町の中学生とイギリス人との国際交流、小学生の鹿島町との県内交流についての健全育成について、活発な話合いが行われた。

指導の先生からは、ふるさとから学び、働きかける活動や、地域と学校の融合の必要性、そして、環境教育とボランティア活動の推進における、ＰＴＡ活動の重要な役割について指導があった。

第六分科会

［提言一］本宮小（安達）

養護教育に対して、学校側とＰＴＡ側とで共通理解を図り、同一歩調で子供たちを見守り、支援していく考えで、諸活動を展開してきた。とくに、可能な限り自立する人間を育てるため、様々な経験のなかでも、対人関係の経験を豊かにするため、交流教育が極めて重要な役割を担っていると考え、交流の機会をつくってきた。

［提言二］小野新町小（田村）

教養委員会主催の講演会の中で障害児教育の内容の話題を出したり、参観日に学級解放として、養護学級の様子も沢山の人達に参観してもらった。さらに、学年行事や地区子供育成会の行事などでは普通学級の児童と一緒に活動してきた。自然な交流、自然な支援こそが、心身障害児への理解の基本と認識して活動してきた。

提言に続いて各校の現状について発言が多数あり、最後に助言者の先生から、ＰＴＡ活動としては教育環境の整備、理解能力を図る交流教育、広報活動などの啓蒙運動が大切であること、進路指導においては、学校教育、福祉、企業のネットワークが、重要であること、今後も養護教育をＰＴＡ活動の中で取り上げて考えていって欲しいことなどの指導があった。

［提言二］大戸中（会津若松）

学校任せにせず、親の質的な変化を促すために、年に数回、講演会を開催しており、開催時間も、たくさんの父兄が参加できるよう夜に行っている。また、家庭における「しつけ」ができていないので、啓蒙を図る必要があるように思われる。

以上の二つの提言に続いて、各校におけるＰＴＡの活動の活性化や体験的活動の推進、また、地区懇談会の在り方等について、活発な意見が交わされた。

助言の先生からは、家庭教育におけるＰＴＡの役割と活性化のために、家庭生活の中で生きる喜びと生き抜く力を学ぶ体験活動の在り方、また、家庭教育における今日的課題にどのような解決を図っていくか、という指導があった。

生徒の福祉の増進と心身の健全な育成につとめるとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図る」ことを目標に、①学校教育・家庭教育に対する理解を深める。②生徒の愛護と補導及び幸福の増進を図る。③学校教育上の必要な環境整備改善を図る。④会員相互の教養の向上と親睦を図る。以上のような活動を推進している。

■■記念講演■■

入院生活で学んだこと

七十歳というのは、人生の険しい峠にさしかかっている年齢であることを身をもって体験いたしました。六十八歳のときに心筋梗塞で倒れまして、お医者さんと看護婦さんに命を助けてもらいました。

退院後に礼状を兼ねて挨拶を書いた文章があります。今子育て真っ最中の親さんにも聞いてほしい。

「昨年十一月に入院し、四十日の病院生活でした。主治医や看護婦さん、ヘルパーさんに支えられ退院出来ました。病人は完全に自分の命をお医者さんに預けるものです。肉体的弱者に対し、見事な距離をとって自信を回復させる技術に感心させられました。また、看護婦さんの患者への対応、底抜けの明るさ、優しさ、配慮のこまやかさ、暖かさに頭が下がりました。状態が良くなってから、若い看護婦さんに聞きました。

『あなたたちのお仕事は、汚いものばかり見、そればかりを扱っている仕事でしょう。どうして嫌な顔一つせずにそんな明るく振る舞えるのですか』答えは、『多分、この仕事好きだからでしょう。』との事。先輩看護婦にも聞いて見ましたが、やはり、『患者さんとの付合で様々学ぶことが出来ます。何よりの勉強の場と考えているのです。この患者さんは、こんな人生を背負って生きてこられたとか、こんなことを考え、こんな事を望んでいらっしゃるんだなとか、人間として生きていく道をとても広くしてくれます。私はそんな事を考えてこの仕事をしているんです。』

▼先生も三Ｋであるはずです

私は、この看護婦さんの言葉を先生方に聞いてほしい。「患者さんを子どもに、病室を教室に、病院を学校に置き換えれば、教師の仕事の本質が見えてくるような気がします。先生にも親にも認められなかった子に、『すごいね君！』生まれ初めて聞く言葉に、その子は耳を疑うが、敏感に言葉の背後に自分を褒めていると知ったとき、涙と鼻汁でぐっしょりの頬っぺを胸元に押し付けてくる。汚れ仕事です。この仕事を嫌っていては先生の仕事は成立ちません、「僕、多分この仕事が好きだからでしょう」と言える教師なら、親はこの教員に我が子を任せるでしょう。

▼親の仕事ですよ、これは

「子どもとの付合いは、私にとって何よりの勉強の場なんです。この子はこんな事を背負って生きているんだと自分が人間として生きていく道を広くしてくれていると思い、この仕事をしているんです」親はこんな教員に一切を任せるのではないでしょうか。

こんな仕事をやれる教員こそが親に「私にこんな仕事を押し付けているけれども、これは親がやることですよ。」と面倒くさがり屋の親に、親のやるべき仕事を返す事ができる教員だろうと思います。

▼血の通った交流のできる場がＰＴＡではないでしょうか

大会をふりかえって

事務局長　石塚達郎

第四五回福島県ＰＴＡ研究大会郡山大会を開催いたしましたところ、県内各地から、参加申し込み者二千二百六十五名、ほかご来賓、大会役員等合わせて、およそ二千五百名の参加を得まして、盛会裡に終了することができました。

会員の皆様のご誠意に敬意を表しますとともに、大会の運営にご支援ご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

さて、今回の大会を推進するに当たり、特色として次の二点があげられます。

一、大会の運営費を、郡山市及び県Ｐ連本部からの補助と参加者からの会費だけで賄ったこと。

二、大会実行委員会の組織づくりを六月にして、委員会活動を短期間の中で行ったこと。

まず、一に関しては、郡山市当局の多大な援助とご配慮をいただいたところですが、できるだけ経費の節減に努めました。例えば、皆様のお手もとに差し上げました大会のご案内は、ワープロで印字したものを印刷したものです。

二に関しては、五月に事務局が、各委員会の分担を明確にして、責任をもって遂行していただきました。もちろん、委員会活動以前にしなければならないことは、着々と進められていましたが、実行委員会組織後の各委員会の主体的な取り組みは、大会成功のカギであったように思われます。

それにつけても、福島県ＰＴＡ連合会の組織力の強さ偉大さには、大変感心いたしました。例えば、大会実行委員会からの依頼に対して、各郡市ＰＴＡ連合会及び各単位ＰＴＡが組織的に取り組んでいる様子をうかがい知ることができ感動すらおぼえたものです。

これも、県ＰＴＡ連合会を中心として、ＰＴＡ活動に真摯に取り組んでいる役員及び事務局員、そして会員の皆様のご努力のたまものとお見受けいたしております。また、先輩諸氏が築かれた伝統も見逃すことができないことと実感いたしております。

最後に、次年度開催のいわき大会のご盛会と県内各単位ＰＴＡのご発展、そして会員皆様のご多幸を祈念しお礼といたします。

■名古屋リポート

会津若松市連Ｐ会長
斎藤好栄

第四四回日本ＰＴＡ全国研究大会名古屋大会に参加させていただきました。「人と地球を愛し、新しい時代をたくましく生きる子どもを育てよう」をスローガンのもと全国各地より一万名の参加でした。第一日目は、熱い日でした。十分科会の内、私は、八分科会の夢あるランチタイムと題して福島県を代表して会津若松市立城南小学校が実践報告をいたしました。この時期に病原性大腸菌Ｏ－１５７による食中毒は全国的に広がる深刻な事態に至る中「楽しいランチタイム」と言う明るい実践報告でした。又、子供側に立っての献立でバイキング給食、郷土料理、会津の食文化の継承、少食・偏食児の給食などＰＴＡ会長伊藤サヨ子さんと栄養技師長嶺恵美子先生の発表でした。今後も「創造性豊かな楽しい食事としてのランチタイム」を考えていきたいとの事、助言の先生はこれらを参考に今後進めてほしいとのことでした。又二人目は兵庫県の災害時における子供の安全と題して南部地震で被害にあった中学校の前会長さんの報告でした。全国の皆さんに支援を受け御礼申し上げておりました。今だ仮設住宅生活との事、子供達の為にもＰＴＡと学校地域で頑張ってほしいと思います。二日目全体会では三名の方の記念鼎談であった。私にはむずかしかった。次期開催地は大分県である。以上二日間の大会が閉じた。私達は遠い為二泊三日の研修でした。特にスーパードライと毛羽みそが想い出です。山岸会長、事務局の方々と懇親を深め、楽しい思い出に残る研修会でした。

■青森リポート

双葉郡連Ｐ会長
坂本栄司

九月十三日・十四日、第三十八回東北ブロック研究大会青森大会に本部事務局長と共に参加した。

快晴の朝五時半に自家用車で出発。六号国道から仙台南を経て東北自動車道へ。快調なドライブ。雄大な岩手山に感動。清楚な岩木山を眺め安堵。明日の午後のお楽しみ三内丸山を横目に正午に到着。

第四分科会「家庭と小学校教育」では、山形県富士見小から「子どもは親の行動や心を見習い、基本的な生活習慣の行動や人間形成上大きな影響を受けている。一人一人の親がその役割を認識し、家庭・地域の教育力を高めることを目指した活動が必要である」と提言、子は親のうしろ姿をみて育つことを改めて肝に銘じた。

青森県黒岩小からは「連携によるＰＴＡ活動について―よその子もわが子の運動を進める会と強くかかわり活動し、互いに努力・支援を。まちぐるみのあいさつ運動について―家庭内の励行等」を提言、明るい地域が目に浮かぶようでとても爽やかな気持ちになった。

指導助言者は共に福島県教育庁社会教育主事の森口智典先生・竹田正彦先生で「親として子育てのビジョンを持つこと、親が一人の人間として輝いて生きること、子どもは地域で育てること、連携から融合へ」など示唆に富んだご指導をいただいた。

二日目、アトラクションのねぶた囃に勇気づけられ、記念講演の千葉紘子さんから「笑顔はいつも花になる」を聞いていい気持ちになって無事富岡町へ。なお、遠い縄文のロマンに浸ってきたことは言わずもがなである。

ひと・わが校の名物会長

本宮町立本宮小学校ＰＴＡ会長
杉田隆子氏

十月中旬に郡山で行われた県ＰＴＡ研究大会第六分科会（養護教育）の提言者報告の通知を伝えたところ、躊躇することなく引き受けたのは、本校のママさんＰＴＡ会長・杉田隆子さんである。

取り組みにくいテーマに敢えて挑戦する姿勢には、彼女の人間性そのものが感じられる。

これまで古書を扱う書店「すぎのこ」の経営に当たると共に、ＰＴＡ活動にも積極的に参加してきた。その実績が評価され、実家庭八百を数えるマンモス校の会長に選出され活躍中である。

毎日毎日が精一杯で、会長として……と言いながら、プラス思考で、楽しみながら活動する姿は美しく、周囲のママさん会長を見守る目も温かい。それは常日頃の気配りにあるかと思量する。

気配りのできる人は、いつも自分のことよりも人のことを本気で誠実に考える。世話好きで、優しく、親切で、人から好かれる。

彼女は、いつも爽やかな笑顔で挨拶し、相手の心を和ませ、周囲を明るくしてくれる。人間的魅力に溢れ、誰とでも明るく交わり、人の喜びを願う人である。

その笑顔から、「子供達も一人一人が明るく前向きに生活して欲しい。悩みがあれば少しでもカバーしてやり、子供達同士が互いに痛みが分かる子になって欲しい。」という願いが伝わってくる。

県大会での堂々とした発表振りには、参加者の共感を得たことは当然であり、本校ＰＴＡにとって誇れる会長である。

（本宮小学校長　荒川勝善）

訪問

互いを大切にする こどもを育てるために

《河沼郡湯川村立湯川中学校ＰＴＡ》

湯川村は、会津盆地の中央に位置し、東には磐梯山、西には飯豊連峰を臨む自然環境に恵まれた純農村地帯の村である。

しかし、こどもたちの生活は都市部に住むこどもと大きな違いもなく、自然の中にいながら、自然に向き合うことが少ないというのが現状である。

そこで、湯川中学校では村が主催する「自然生活体験活動」に平成七年度から参加し、自然と人間とのかかわりについて深く考えることのできる人間の育成を図っている。この活動は、東白川郡塙町にある「小野田自然塾」で行われ夏季休業中にＰＴＡ役員（第一学年役員）と先生方が協力して実施している。

「小野田自然塾」といえば、フィリピンのルパング島から戦後二十九年という歳月を経て帰還された小野田寛郎氏が主宰しておられるところである。従って、研修内容も、火のつけ方、コンパスゲーム、ロープワーク、ナイフの使い方など、実践そのものである。日常生活の中では、ほとんど経験することのないような活動の数々にこどもたちの目は輝きっぱなしであった。

この三泊四日の活動を通して、保護者と先生、保護者とこども、そして、何よりこども同士の心の交流に、大きな働きかけができたのではないかと思われる。偉大な自然の中では、人間はちっぽけな存在であることを認識し、お互いの人格を認め合うことができれば、この事業は大成功と言うことができるであろう。

三校連携の成果

《いわき市立藤間中学校ＰＴＡ》

いわき市立藤間中学校は市街地の郊外に位置し、自然に恵まれた県立新舞子自然公園に隣接している。学区は広く、夏井・高久地区に分かれ、ハウスによるイチゴ栽培が盛んに行われている。地域及び保護者の学校に対する関心は伝統的に高く、学校教育に寄せる期待は大きい。

本校のＰＴＡは層の厚い活動を展開している。本校の現職に加えて、退会者を中心とする教育後援会、地元の退職校長による平潮会、夏井小・高久小・藤間中の三校ＰＴＡと支援体制は万全である。

藤間中ＰＴＡ活動の大きな特色は、地区が一体となった三校ＰＴＡの活動であろう。主な活動内容を挙げてみると、①親善視察旅行（三年に一度）②少年親善野球大会開催 ③地区懇談会 ④校外補導 ⑤広報「新舞子」の発行 ⑥ＪＲＣ活動の育成活動（海浜清掃）と多彩である。

平成六年度には、ＪＲＣ活動推進地区に指定され、委員会活動を中心に公開された。取り組みの一環として三校合同の海浜清掃が実施されたが、青空の下海風に吹かれながら袋を片手にごみ拾いに汗を流す姿はすがすがしさを感じるものであった。県立公園の環境維持に一役買っている業績であると自負している。

定期的な海浜清掃が認められ、平成八年四月に市長表彰を受け、同七月には優良河川団体として県知事表彰を受けている。これまでの実績を誇りとし今後さらに研修を深め、一人立ちできる生徒の育成をめざして地区一体となった活動を続けたい。

晴れの表彰おめでとうございます

第四五回福島県ＰＴＡ大会郡山大会全体会において、次の方々に対し感謝状並びに表彰状の贈呈が行われました。（団体表彰者のみ掲載いたします。）

【感謝状】

▽県連Ｐ前副会長　成田　介
　植野勝次、岩谷敬恒
▽同監事　高野金助、菅野昌徳、
　星冨士雄
▽同理事　矢吹清一、山野辺耕一
　高橋誠、二瓶博光、永田茂男
　藤井健一郎、小沼ヤチ代
▽各地区事務局長
　鈴木久雄、大竹豊紀、鈴木長雄
　大橋勝利、鈴木幹男、笹川征喜
　二瓶　顕、佐藤定男、星　佐益
　湯田耕衛、三浦光孝、
　久保田義輝
▽同事務局長　関　廣之
▽同事務局部長
　根本文弘、矢葺光政、渡邊宗孝

【表彰状】

▽福　島（個人表彰十一名）
　三河台小Ｐ、平野小Ｐ
▽達　南（個人表彰三名）
▽伊　達（個人表彰二名）
　山舟生小Ｐ、大木戸小Ｐ
　霊山中Ｐ、桃陵中Ｐ
　月館中Ｐ

ふれあい・設備充実

《喜多方市立松山小学校ＰＴＡ》

平成二年に創立百周年記念行事を持って以降、より良い教育環境の中で子ども達がのびのびと成長してくれることを願って、校庭や校地の整地・整備美化をＰＴＡの重点事業として取り上げている他に、親と子・保護者同士のふれあいを考慮した学年ＰＴＡ行事・廃品回収・バザー・親子奉仕作業などを実施しています。

最近の少子化傾向は、会津盆地北西部に位置する田園地帯の本校でも顕著に見られ、ＰＴＡ会員数の減少につながっている反面、子どものしつけの在り方などが問題点として挙げられるようになっているため、心理学的な見地からの子育て教育講演会で会員の研修を図ったり、学年ＰＴＡ行事として六年生は恒例となった磐梯登山など、学年に応じた内容で計画・実施し保護者同士の意志疎通の場としても効果をあげ、昨今の教育界における問題点として懸念されている「不登校」や「いじめ」の絶無を親の立場から考えて行こうとしているところです。

ここ数年、屋外多目的コートや校庭の簡易排水などの整備作業が会員の積極的な協力を受けて行われ、美的環境の造成と併せて小・中・高校生にまでバスケットの練習の場を提供し活用されていますが、特に校庭の排水が容易になったことは、今までだと降雨後は数日にわたって使用できず延期していたような行事も予定通り実施できるようになって大変喜ばれており、「明るく心身共に健康な子」育成のために側面的な支援をしていることを実感しています。

単Ｐ

学校と保護者の協力が一歩前進

《鮫川村立鮫川小学校ＰＴＡ》

本会では学校とＰＴＡの連携を図りながら、次のような活動を行い、成果を収めています。

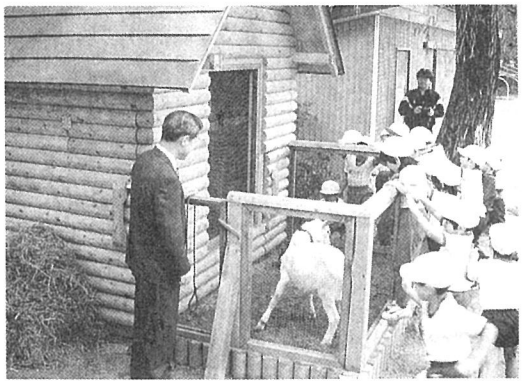
一　会員の意識の向上を図る。

「内から育つ」が鮫川小学校の教育目標です。本目標は、子どもたちに自主的・自発的精神を吹き込み、自ら育つ子どもたちを育成しようと掲げられたものです。本会ではこの目標の具現を目指してＰＴＡ活動を考えていくことが、会員の連携、協力体制を確立してゆく重要な基盤になると考えました。そこで、具現のための意見交換や座談会を企画し、ＰＴＡ会報等を活用しながら、会員の意識の向上を図っています。

一　子どもたちの豊かな心を育む環境をつくる。

子どもたちの優しい心を大切に育てるひとつの手立てとして、以前より動物の飼育小屋の建設が望まれていました。今年度は会員が実現のために力を合わせてバザーを開き、資材を購入、役員の協力を得ながら工事を行い、遂に完成させました。鮫川の美しい景観に似合うログハウスで可愛い別荘のようです。飼育している動物はヤギとウサギで、これも会員の協力で譲っていただいたものです。たいへん人なつっこく、すぐに子どもたちのアイドルになりました。飼育にあたっては飼料費を確保するためにさっそく今年度より廃品回収を始めました。

本会ではその他、自然教室や宿泊活動を行ったりして、子どもたちの自主性や社会性を育てる一役を担っています。



▽安　達（個人表彰二名）
安達太良山小Ｐ
▽田　村（個人表彰六名）
下川崎小Ｐ、岩根小Ｐ
糠沢小Ｐ、小浜小Ｐ
木幡一小Ｐ、上太田小Ｐ
▽郡　山（個人表彰七名）
安積三小Ｐ、中野小Ｐ
御代田小Ｐ、明健小Ｐ
郡山一中Ｐ、郡山二中Ｐ
▽岩　瀬（個人表彰六名）
鏡石一小Ｐ
▽石　川（個人表彰六名）
諭田小Ｐ
▽田　村（個人表彰六名）
大越小Ｐ、要田小中Ｐ
▽西白河（個人表彰五名）
白河四小Ｐ、米小Ｐ
泉崎一小Ｐ
▽東白川（個人表彰五名）
▽若　松（個人表彰三名）
湊中Ｐ、永和小Ｐ
▽北会津（個人表彰三名）
東中Ｐ
▽耶　麻（個人表彰九名）
▽両　沼（個人表彰六名）
▽大　沼（個人表彰三名）
▽南会津（個人表彰四名）
桧枝岐小中Ｐ
▽相　馬（個人表彰七名）
真野小Ｐ、磯部中Ｐ
▽双　葉（個人表彰五名）
広野小Ｐ
▽いわき（個人表彰七名）
藤間中Ｐ、植田中Ｐ
小名浜一中Ｐ

日中友好少年少女の翼に参加して

田島町立田島中学校
金子佳代

「ここが中国……。」

飛行機から見下ろした異国は、広大で、私は言葉を失いました。飛行機を降り、バスで北京市内を移動しながら見た高層ビルや自由市場、道路を埋めつくすほどの夥しい数の自転車は、私の想像以上で驚きました。中国については、教科書に書かれていることぐらいしか知らなかったので、見るもの全てが新鮮でした。その中で特に驚いたのは、食事です。本場の中華料理の味は、日本にあるものより濃く、かなり違っていました。そして、水を飲むためには、必ず買わなくてはならないことには、大変驚きました。

また、一番心に残っていることは、中国の中学生と過ごした時間です。彼らは、とても親切に私達と接してくれました。交わす言葉は英語などで、お互いによく通じ合わないことがあったのですが、あちらが一生懸命私を理解しようとしてくれたことは、今でもうれしく思います。

それから、私は貴重な体験もしてきました。それは、故宮や万里の長城などの中国の歴史と深い関わりを持つ建物を見たことです。私は、それらの壮大さに圧倒されたと共に、中国の歴史の重みを肌で感じとることができ、うれしく思いました。

このような六日間の旅を通して様々な事を学び、またとても大きなものを得ました。私はこれを、これからの生活に生かし、一生大切な思い出として心の中にしまっておこうと思います。

会津若松市立第四中学校
湯浅友和

平成八年三月、日本中から集まった百二十三名の中学生とともに日中友好「少年少女の翼」に参加しました。成田空港から中国の首都北京へ向けての出発では、初めて乗る飛行機への不安と中国の人々との交流を深めるという任務の重要性を考え緊張で頭の中がいっぱいでした。

しかし、飛行機から降り、中国への第一歩を踏み出した時から感動と驚きの連続でした。

首都北京はとてもパワーがありました。近代的な建物が立ち並び、四車線もある広い道路をたくさんの自動車と自転車が慌ただしく走っていました。往来の人々の顔も活気にあふれていました。

それから「天安門広場」「故宮」「万里の長城」等を見学しましたが、中国の歩んできた歴史の偉大さ、重さ、そして人々が築いてきた文化の素晴らしさを感じるものばかりでした。最も感動したのは、「万里の長城」です。歩いても歩いても、前方が彼方に見え、景色は雄大でした。

今回の目的であった中国の人々との交流では、中国の人々が皆親切で優しく、笑顔で歓迎してくれたことが心に残っています。伝統芸能の「京劇」と「舞踊」を披露してもらいましたが、中学生の態度は実に堂々としていて精一杯の歓迎の心が伝わりました。言葉がうまく通じなくても誠意を心で感じた五日間でした。言葉、生活、習慣が異なっていても、互いに相手を理解する気持ちがあれば、必ずやつながりは深まっていくと改めて実感しました。

素晴らしい貴重な体験ができたことを深く感謝申し上げます。

第三十二回 小中学校新聞コンクールのご案内

学校新聞は、学校生活を正しく報道するという使命をもち、児童生徒の資質の向上に大きな役割を果たしております。

今年度も福島民友新聞社と共催し、学校新聞の内容充実と新聞製作技術の向上を図るため、以下の要領で学校新聞コンクールを行っています。

ふるってご参加下さい。

▽対　象
県内小中学校で発行する新聞または、ＰＴＡで発行する新聞で平成八年一月以降に発行したもの。（学年・学級新聞も可）

▽応募方法
発行回数(号)ごとに各一部を送ってください。

〒九六〇　福島市柳町四－二九
福島民友新聞社事業本部
「新聞コンクール係」

▽締め切り
平成八年十二月七日(土)

▽表　彰
「学校新聞の部」「ＰＴＡ新聞の部」別に審査のうえ、最優秀、優秀、入選などを選びます。

また、ＰＴＡ新聞の優秀作品は、「全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクール」に出品します。

■第二十回 子どもの災害事故防止習字・ポスター募集

今年も子どもの災害事故防止習字とポスターを募集します。多数の応募を期待しております。

▽対　象
福島県内小・中学生

▽応募規定
小学生（楷書）
一年　にじ　二年　ゆめ
三年　用心　四年　元気
五年　安全　六年　健康
中学生（行書）
一年…栄光　二年…発展
三年…躍進
以下は募集要項参照
（各学校に十一月配布済）

▽応募資格　習字・ポスターとも小中学校児童・生徒とする。

▽応募期間
平成八年十二月二日から
平成九年一月二十五日まで

▽提出先
〒九六〇
福島市黒岩字田部屋五三－五
県青少年会館内
福島県ＰＴＡ連合会事務局

編集後記

▼会報をお届けいたします。

▼本会報のために貴重な原稿、写真等をお届けいただきました大会事務局始め多くの皆様方に深く感謝いたします。